

## 私がした小さな親切

千葉県 第三中学校 2年 小松 莉奈

私は、夏休みに親切なことをしました。私の住んでいるマンションには、病気で体が不自由な人が住んでいます。その人は私のことを知りませんが、私は何度か見かけたことがあるので知っていました。ときどき倒れそうになるのでいつも心配に思い、見つめてしまいます。

夏休みに起こったできごとです。ある日の午後8時30分ごろ、塾の帰りでした。私が家に向かって歩いていると、目の前に体の不自由な人が右に左にと体を左右にゆらしながら歩いていました。私は心の中で、(大丈夫かな、転ばないかな)と不安な気持ちになりました。何も起こらなければいいなと思っていたけれど、私の願いとは異なった方向に事態は進んでしまいました。

その体の不自由な人が転倒してしまったのです。私は、早く助けてあげなきゃいけないと思い、走ってその人の元へかけ寄りました。

「大丈夫ですか、けがはありませんか。」

とまず声をかけました。その人は、

「大丈夫です。ありがとうございます。」

と言いました。次に私は、

「痛いところはありませんか。立てますか。」

と聞きました。その人は、

「大丈夫です。立てると思います。」

と言いましたが、私は一人で立ち上がることは難しいと思い、

「私の肩につかまってください。」

そう言って肩を貸しました。その人は、

「すみません」と言って私の肩につかまり、なんとか立つことができました。その人と私の住むマンションは目の前に見えました。

私が、「歩けますか。」と聞きくと、その人は「大丈夫です。」と答えましたが、

「私もそのマンションなので、いっしょに歩きましょう。」

と声をかけ、ゆっくりゆっくり歩行スピードを合わせて、いっしょに歩きました。また倒れてはいけないと思い、私は倒れないようにしっかり歩きました。

マンションの前まで来ると、その人は、「もう大丈夫です。」と言いました。しかし、心配だった私は、

「ドアの前までいっしょに行きます。」

と言って、いっしょにエレベーターに乗り、その人の家のドアの前まで行きました。

「本当にありがとう。本当にありがとう。」

と、くり返し感謝の言葉を言ってくれました。

あたりまえのことをあたりまえのようにしました。その私の行動にとっても感謝してくれる人がいました。

自分がした小さな親切で、私自身がとても幸せな気持ちになりました。私もその人にありがとうと伝えたいです。